

演奏に
役立つ

One Point Lesson

照喜名俊典 てるきな・としのり

EUPHONIUM

ユーフォニアム

楽器を操る！ リップスラー



- ◆出身 愛知県立新川高校、愛知県立芸術大学、ノーステキサス大学院ジャズ科に3年間在籍
- ◆所属 チューバマンショー、名古屋ウィンドシンフォニー、鬼頭 哲 ブラスバンド
- ◆趣味 バイクで行くおいしい蕎麦の旅
- ◆血液型 B型
- ◆星座 てんびん座
- ◆読者にひとこと 冒険にでかけよう！
- ◆手紙の送り先 tterukina@gmail.com

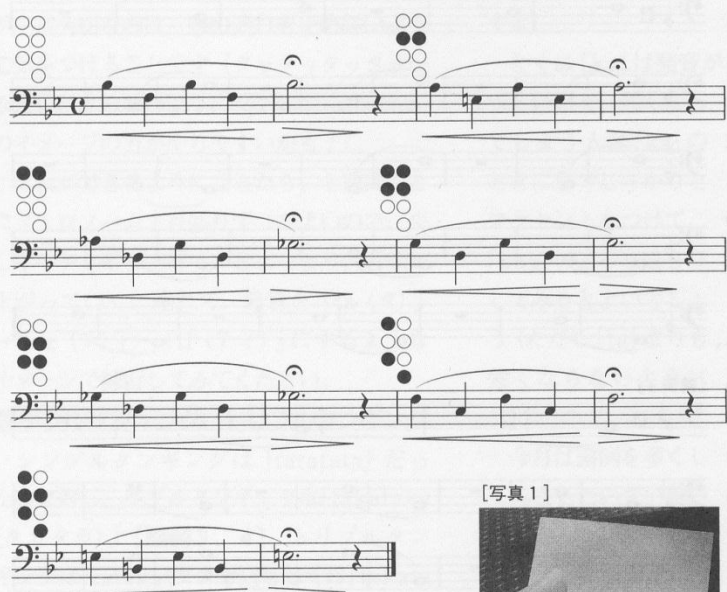
これまでに説明してきた、ロングトーンやタンギングの練習は、言うなれば筋トレみたいなものです。単に筋肉だけをつけてガチガチの体を作っても、実際には何もできません。

■なぜ「リップスラー」を練習するのか

今回のリップスラーは運動でいうところの「ストレッチ」です。柔軟な唇を持つと、難しい新曲を渡されてもすぐに対応できるようになります。なお、実際の練習パターンについては、教則本などにたくさん載っているのですが、ここではもっとも単純な例を1つ出すだけにしておきます（【譜例1】）。

どんなパターンのリップスラーの練習でも共通することですが、まず難しいのは、音を下げるときよりも、上げるときだと思います。これは、口の筋肉を適当にゆるめさえすれば、簡単に低い音に移行できるのに対して、音を上げるときには、流れている息に逆らって、口の筋肉を動かさないといけないからです。

【譜例1】



【譜例2】



この口の筋肉の緊張と弛緩の度合いを、繰り返し練習して習得するのがリップスラーの練習の意味です。

■スムーズにいかない原因は？

さて、音がうまく上がらないときに、無理やり息をブーッと流し込んで、勢いで上げてしまう人がいますが、これは間違った練習方法です（ごまかしてタンギングをするのも、もちろんNG!）。息の流れは【譜例1】にクレッシェンド、デクレッシェンドで示してあるように、あくまでスムーズかつ自然にして、急な動きをつけるのは避けましょう。

うまく音が変えられないときは、まずマウスピースだけで2つの音をグリッサンドでなだらかにつなげて練習してみます（【譜例2】）。みなさん、こちらは簡単にできるのではないのでしょうか。

このように、マウスピースだけなら簡単にできるはずのリップスラーが、楽器ではうまく

いかないというのは、知らず知らずのうちに「その楽器で、音が切り替わってくれるポイント」というのを、あなた自身が探りながら吹いているからです。

これはどういうことかというと、金管楽器というのは本来、マウスピ

ースと唇でしっかりと作った音程を拡張するだけの道具なんですけど、いつの間にか自分の唇のほうが「楽器がいちばん鳴りやすい音程」に持っていかれてしまうのです。そうすると、「自分が楽器を操る」という状態からはほど遠く、「自分が楽器に合わせて吹いている」状態になってしまいます。

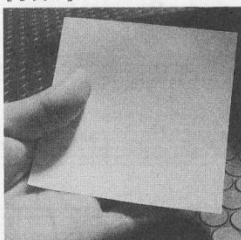
■紙を1枚用意してください

さて、そんな状態から脱却するために、次の方法を試してみてください。用意するものは紙切れ（【写真1】）。これを【写真2】くらいの大きさに折りたたんで、マウスピースとマウスパイプの間にはさみます（【写真3】）。かなり不安定になるので、マウスピースを落とさないように十分に気をつけてください。また、誤ってちぎれて楽器の中に入ってしまうのを防ぐため、学校で配られるプリントのようなものではなく、なるべくしっかりした紙にしましょう。

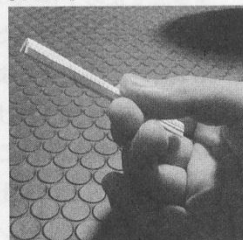
この状態でリップスラーの練習をすると、すき間から空気がもれて、マウスピースだけで吹いているときの状態に近づき、しっかりと自分の唇で音程を作ようになります。難易度は、紙の厚さやさしこみ具合で調節できるので、いろいろな状態で試してみてください（浅い→マウスピースだけの状態に近くなる／深い→普段の状態に近くなる）。

このように、紙を抜いたときにもしっかりと唇で音程を作ようになると、これまで言うことを聞いてくれなかった楽器が、きちんと自分のやりたいことに反応するようになってきます。

【写真1】



【写真2】



【写真3】



リップスラーのパターンは無限にありますので、どんどん難しいものにチャレンジしていきましょう！